

脱マスクの先に待つコロナ禍以前の日常へ

体内マスクで免疫力増強

インフルも流行

政府の決定により、13日からマスクの着用が「個人の判断」に委ねられた。マスクの着用は、感染症対策の基本として根付いていただけに、戸惑いを覚える人も少なくないだろう。そんな中、5月には新型コロナウイルスの感染症法上の分類が季節性インフルエンザと同じ5類へと移行。感染症対策の緩和など、脱マスクに向けた動きが着々と進む中でより重要となってくる「体内マスク」として働く免疫機能の維持について、医療現場の生の声を交えながら考察していきたい。

新型コロナウイルスが人々の日常生活を一変させてから3年。しかし、今年は3年ぶりにインフルエンザの流行が確認されるなど、これまでとは一線を画している状況と言えるだろう。インフルエンザと新型コロナウイルスに同時感染するフル

ロナ感染者の診療経験がある、いとう王子神谷内科外科クリニック院長の伊藤博也氏も「大きな話題とはなりませんでしたが、インフルエンザの流行、コロナとの同時流行を初めて実感し、その年でしたね」としみじみ振り返る。同クリニックでは、「フルロナ感染者を見落とすことがないように検査体制をコロナ禍以降初めていました。このように免疫力が下している中での、今